

第1回の神戸、一人ではゴール出来なかった

京都府 伊藤 智恵子

第1回の神戸は誤って来た当選メールのお陰で走れた大会でした。フルは2回目、エイドがあるから身軽にと思って水も持たずに出たのですが、甘さを思い知らされたレースになりました。たまにある事ですが、初回の神戸は5時間を越えるランナーにはコップもなくなり、水も切れたエイドが多々あり、手で水を貰ったり下手したら、捨てられたコップで飲んだり、小銭は持って行ったので、コンビニで水を買えた私はまだラッキーでしたが、途中脱水で動けなくなっている人が沢山いました。私は何とか30kmの大橋を渡る辺り迄頑張りましたが、やはり、脱水と疲労では止まり、諦めかけた時、500kmの距離を超えて応援に来てくれた友人二人顔が見つかり、声が聞こえました。ここで歩いたら、格好悪い！とそれだけでがむしゃらに足を動かして、何とかゴール迄たどり着きました。フル、恐るべしと一人では走れないのを実感した大会でした。それと、走る際は多少荷物でも、小銭と水、折り畳みコップは必須になりました。神戸は2回目も出ましたが、コップ、水が切れるような事は無く、私も少し楽に走れました。



ランナーエピソード わたしの『感謝と友情』ストーリー



KOBE MARATHON
2022.11.20 SUN